

第7回 ワークショップ検討タスク議事録

1. 日時:平成24年11月26日(月)13時30分～17時10分

2. 場所:日本電気協会 6階「BMTカンファレンスルーム有楽町 大会議室」

3. 出席者

出席委員:渡邊主査(原子力安全推進協会), 倉田(中部電力), 小嶋(日立GE),
齋藤(西日本技術開発), 佐藤(東芝), 重光(九州電力), 島津(北海道電力), (計7名)
代理出席:池田(東京電力・山本), 櫻井(関西電力・森), 清水(三菱重工業・神田) (計3名)
欠席委員:錦野(日立GE) (計1名)
オブザーバ:棟近分科会長(早稲田大学), 飯塚(東京大学), 村上(三菱重工業) (計2名)
事務局 :糸田川・眞正(日本電気協会) (計2名)

4. 配付資料

- 7-1 ワークショップ検討タスク 委員名簿
- 7-2 第6回ワークショップ検討タスク 議事録(案)
- 7-3 リハーサル資料

5. 議事

(1) 定足数確認

全委員11名(退任:井上委員)中, 10名出席(うち3名は代理出席)であり, 議案決議の定足数(8名以上)を満たしている事を確認した。(事務局による。資料7-1)

(2) 前回議事録の確認

本日の議題は12/14のワークショップ本番のためのリハーサルの実施であるので, 前回議事録の事務局による説明は省略した。前回議事録の確認については, 今回の本議事録案の確認のための委員への送付時にあわせて送付し, 確認していただくこととした。確認結果は, 本議事録案に追記する。(事務局による。資料7-2)

(3) リハーサルの実施

渡邊主査の議事進行により, 資料7-3に基づき, 各講師による講習内容の説明があり, 質疑・意見交換を行った。各講師の担当資料原稿については, 本日の意見等を参考にして修正を加え, 12/6までに事務局まで送付していただくこととした。(12/14のワークショップ本番用のテキスト作成のため。)

また, 追加パネラーについては, 島津, 池田, 佐藤^要の3名の委員に参加いただくことを確認した。

① 基調講演「QMSのこれまでとこれから-他分野も参考にして-」(棟近講師)

(主な意見)

- ・安全文化をQMSの中にどのように盛り込むか?
- ・リーダーシップについては, 内容の具体的な説明が必要だ。
- ・福島で得られた教訓をどうつなげるかが最も重要だ。それについては, これだと思えるものを明示した方がよい。
- ・9頁「安全文化」の項目内容(上から順に①～⑤の5項目)については, 何に対する「危険」と「手順」なのか, 関係が分かり難い。
→不思議と思ったら声を上げるというようなことが安全文化にとって重要なことである。そういう説明が必要だ。
- ・「～をするために」のように, 行動規範の上に手順書があるのでは。
→行動規範が手順に反映されることが大事だ。また, それがみんなに理解されていることも大事である。順序は①→②→⑤→③→④が良いのではないか。

② テーマ1[福島事故を受けて、QMSとしての課題は何か](渡邊講師)

(主な意見)

- ・福島事故を受けて、QMSのスコープを拡大する必要があるかもしれないということだ。これまで日常のルーチンワークとして建設段階で考慮していなかったことに対して、100年に1回しか使わないようなシビアアクシデント対応のサブシステムを日常の仕組みの中に今後どのように準備しどこまで対応するのか考える必要があるということだ。そういうことを最初に説明した方が分かり易い。
- ・「日本は世界の情報孤児になっていた。」の表現は言い過ぎであり、知らなかったわけではない。
→情報が共有されていなかったとか、適切に取り込む事ができていなかった等、世界では色々導入されていたようなシビアアクシデント(SA)対策が実施されていたことを述べようとしたものだが、表現を工夫する。
- ・「原子力安全のための取組みが不十分」、「大局的視点、活動が抜けていた」というのは、「安全文化が培われていなかった」ことに起因するととらえておく必要がある。
- ・事実を言っても、とがめられないような組織は、安全文化が宿っている一例だ。

③ テーマ2[QMSと安全文化-どうすればQMSと安全文化を効果的に融合できるか-](倉田講師)

(主な意見)

- ・安全文化の活動をプロセスの中に組み込んでいくということだが、後段にJEAG4121の追記内容があるので、今後JEAG4121をこのように見直すと説明することになるのかが、悩ましい。
→JEAG4121の記載への反映までの議論に至っていないので、講師からの提言とした方が良い。
- ・「IAEAの5つの特性」は、5項目すべて表現した方が良い。
- ・QMS活動の中でいかに安全文化を発揮できるかと言う事だと思うが、副題「どうすればQMSと安全文化を効果的に融合することができるか」に対して、規程の中に安全文化を取り込むことと、結論「これで質の高い業務ができるか？」との関係については、まだ途上にあることを補足説明した方がつながりが良くなると思う。

④ テーマ3[最近の米国のQA活動状況について](村上講師)

(主な意見)

- ・説明資料の枚数が多いので、「3. NRCによる規制検査」と「5. 最近のQA課題」は参考資料に移した方が良い。
→了解。「2. 米国原子力のQMS」と「4. 安全文化醸成の実践」を中心に説明したい。
- ・テーマ1の「今後の改善への提案」の中で、「大きなPDCAを監視する」というのは、米国では安全に関するものに焦点を当てているという説明や、市販品を購入する側が責任を持って導入する方法にも言及して欲しい。
→検討する。

(4) その他

- ・パネルディスカッションの進め方は、従来通りとし、追加パネラーについては、島津、池田、佐藤^要の3名の委員に参加いただくことを確認した。
- ・各講師の担当資料原稿については、本日の意見等を参考にして修正を加え、12/6までに事務局まで送付していただくこととした。(12/14のワークショップ本番用のテキスト作成のため。)

以 上